

徳成随風 31 で「長禅寺 服部家の石碑」を 2015 年 2 月に書いたが、その石碑は大正 8（1919）年の建立である。その中に文禄元（1592）年豊臣秀吉が朝鮮半島を攻めた時に、各地で軍船を建造したが、長島町下坂手でも大船を造り、その時に使った梯子が下坂手の仁了寺に現存していると、書いてある。

文献を調べてみると、宝暦年間（1751～63）ころに発行された『三国地志』や明治 18（1855）年ころ発行の『桑名郡志』、昭和 49（1974）年発行の『長島町誌』も、それぞれニュアンスは違うが、仁了寺に梯子が残っていそうである。

仁了寺に電話をしてみたが、不在ばかりで通じなくて困っている時に、私の文を読んだ桑高同窓会の役員で長島町在住の U さんから仁了寺についての情報を貰った。新しい住職が入られたとのことで、落ち着かれたところに電話してみた。今まで長島と全くご縁になかった住職なので、過去のことは何もご存じない。探したら押入れの隅にそれらしい木材が見えるということで、仁了寺へ出かけて現物を確認した。かなり古そうな梯子の縦木らしいものが 2 本見える。裏付ける一次史料に欠けるが、檀家などの言い伝えや文献から考えて先ずは間違いなさそうに思える。

出兵の際の動員人数や戦闘の様子は数々記録されているが、武士や物資を運んだ船のことは殆ど知られていない。多数の軍船を各地で建造したと思われるが、建造した場所や道具類についても、今まで調査・研究がなされていない。この梯子が秀吉の朝鮮出兵当時のものとするれば貴重な文化財であるが、それを裏付ける決定的な資料が見当たらず。取りあえず世間に発表することで、何か情報が得られるかも知れないと思い、新聞紙面に書いてもらうことにして、2015 年 10 月 28 日に桑名市役所の記者クラブに属する新聞社に集ってもらい、仁了寺で記者発表をすることにした。

その日は少し早く行き、押入れの中から運び出し、本堂に置いた。読売、毎日、朝日、伊勢各社の記者が来たので、私が経緯を話して、色々と質問を受けた。今後は裏付け史料をさらに探したり、材質を科学的に調べて年代判定をする必要がある。秀吉時代のものと判明したら、確実に文化財としても指定できるだろうと話した。会見が終わって押入れに仕舞ったところで、中日新聞の記者が遅れてきたので、また出してきて説明をした。翌日の 29 日に読売、毎日、伊勢の各新聞が、翌々日の 30 日に中日新聞が、いずれも地方版だが、写真入りの大きな記事を書いてくれた。



仁了寺での記者発表の様子